

オーストラリアって遠くて近い国？

奈良県広陵町立真美ヶ丘第二小学校 中條 佳記

1 はじめに

日々の取り組みとして、日記を書かせている。その中に、アメリカ産牛肉を使うY店の牛丼を取り上げた内容が見られた。そのことを教室で話題にすると、N店では今までもずっと食べることができたという答えががえってきた。N店では、オーストラリアの牛肉を使っているという予想をする子どもが多かった。そこで、N店の牛肉の産地を調べてみると、オーストラリア産であることがわかった。

2 事前のオーストラリアに対する意識

子どもたちにアンケートをとった結果、オーストラリアについて知っていることは、コアラ・カンガルーがいる、オリンピックの開催地である、英語を話している、季節が日本と逆などであった。しかし、国の形や場所、国旗などについても聞いてみたが、正確に答えられる子どもはほとんどいなかった。子どもたちの身近で目にする物は何かというと、オーストラリア産の牛肉が挙げられた。

3 地図帳でのオーストラリア調べ

『楽しく学ぶ小学生の地図帳（最新版）』（以下地図帳）p.45～p.46を見たところ、牛肉の輸入量までは掲載されていないことに気がつく。別の資料に書かれていたのは、鉄鉱石や石炭などの鉱産資源の輸入量であった。そのため子どもたちはどんな物をオーストラリアと輸出入しているのかに興味もち、関心を示すようになった。



帝国書院『楽しく学ぶ小学生の地図帳』（最新版）p.46
（以下同様）

4 身のまわりはオーストラリア産だらけ？

地図帳p.57「日本と世界の結びつき」、インターネット、社会科資料集で調べようになった。牛肉や鉄鉱石・石炭だけでなく、食肉・魚介類・食料品・羊毛・工業製品などを日本はオーストラリアから輸入していることがわかった。



p.57

次に子どもたちから「オーストラリアからは、どうやって運ばれてきているのだろう。」という疑問が出てきた。そこで、輸送の方法や時間について学習していくことにした。オーストラリアとの距離（約8500km）を地図帳p.68～70「世界の国々と国旗」で確認し、空輸や海上輸送での日本までの時間をおおよそ算出した。また日本は、鉄鉱石や石炭をたくさん輸入して、どんなものをつくっているのかということも調べてみた。その結果、輸入した鉄鉱石で、自動車などの乗りもの、ビルの骨組みや電気製品などの材料になる鉄をつくっていることがわかった。さらには、石炭を発電所の燃料として使っていることもわかってきた。



p.69

こうしたことから、私たちの生活に欠かせない鉄鉱石や石炭を日本に送り出している国、オーストラリアが見えてきた。つまり、オーストラリアは日本から遠く離れているけれども、自分たちの生活にとって非常に関係が深く、身近な存在であることに気づくことができた。

5 おわりに

日々、見聞きしたことから、地図帳を活用することで、地理的な位置を調べるだけでなく、資料やデータも見て活用できるようになった。地図帳の本来もっている資料集としての役割を果たさせるようになったことは、今回の大きな成果だといえるだろう。